

令和6年度第3回東郷町地域公共交通会議 議事録

日時 令和6年3月6日(水)
午後4時から午後5時30分まで
場所 東郷町民会館2階 大会議室

出席者(敬称略・順不同)

	役職	所属等
1	会長	名城大学 理工学部 社会基盤デザイン工学科 教授
2	副会長	東郷町健康福祉部長(代理出席:高齢者支援課長)
3	委員	諸輪地区代表
4	委員	白土地区代表
5	委員	御岳地区代表
6	委員	名鉄バス(株) 運輸本部地域交通部地域交通課交通企画官
7	委員	公益社団法人愛知県バス協会 専務理事
8	委員	瀬戸自動車運送(株) 取締役
9	委員	名古屋タクシー協会 専務理事
10	委員	愛知県交通運輸産業 労働組合協議会幹事(代理出席:幹事代理)
11	委員	国土交通省中部運輸局 愛知運輸支局首席運輸企画専門官
12	委員	愛知県都市・交通局 交通対策課担当課長(代理出席:主事)
13	委員	愛知県愛知警察署 交通課警部(代理出席:警部補)
14	委員	東郷町都市環境部長
15	委員	みよし市都市建設部 都市計画課長
16	委員	豊明市行政経営部 企画政策課長(代理出席:課長補佐)

欠席者 4名(祐福寺地区代表、和合ヶ丘地区代表、公益社団法人愛知県バス協会、日進市生活安全部防災交通課)、傍聴者 8名

1 会長あいさつ

- ・本日は非常に重要な議題がある。前回から皆さんに議論いただいている地域公共交通計画の修正である。特に一部地域での不満の声が大きいということで、そこへの対応をどうするか。これは公共交通会議としても、その不満を改善していかないといけない。さらに、来年度に向けた事業の内容についても検討いただく。短い時間だが、密度の高い議論をお願いしたい。

2 議題

(1) 東郷町地域公共交通計画の修正（案）について（資料1—1、1—2、1—3）

【事務局説明】

<諸輪地区代表>

- ・資料1—1の2の前回公共交通会議の議論というところで、「巡回バスの利用の多いところは厚く、そうでないところを減らすことは納得できない。」というのは、私の意見を要約したと思うが、こんな単純な話ではない。行政サービスである巡回バスは税金で賄っているので、住民ができるだけ平等に享受できることが1番大事と考える。どこに住んでも平等にバスが利用できるということである。あるエリアに住んでいたら1時間に1本ずつバスが来るが、少し横に住めば3時間に1本しか来ないのではいけない。公民館にお見えになる諸輪地区の方や、諸輪住宅の方、北山台の方からも不満を聞く。あまりにも地域の交通格差が大きすぎる。もう再編から3年経った。さらに3年同じことを続けるのは我慢できない。資料1—1の3番で提案が3つあり、これも大事なことだと思う。しかし、不満を解消させるために今すぐできることは、令和6年度に再編の準備をして、7年度に再編をするということである。それが1番早いと思う。そのための具体的な提案は、専門家が会議にいるので、1つのところを増やせば、1つところが減るといふことにはなるが、より有効に税金で走らせるという観点からご意見いただきたい。
- ・今諸輪で何が起きているかと言うと、小学校への親の送迎である。離れた小学校に通うのに、道中暗く、危険だということで、通学にバスを利用してきた。そのバスを利用できなくなったということで、親が送迎をしている。異常なくらい朝と夕方に送迎する様子を見る。これが6年続く。兄弟がいたら10年続く。これは直してあげたい。子どもにとってはもう1つ、その後の進学で高校に行くにも最寄りの駅に行けないので、送迎が起きていると聞いている。このようなことが起きているのは、諸輪地区、東部地区の地域だけである。子育てをしている人たちは、憤慨していると思う。そんな話を公民館で延々と聞かされる。
- ・これは、3年前に生み出した公共交通の不均衡である。それをまず認識いただきたい。
- ・もう1つは、買い物をする高齢者にとって全く利用できなくなったということ。3時間に1本だと、行きは行くことができたものの、帰りは重たい荷物を持って、80歳、

90歳の方が持って帰ると聞いている。そんな現実が、この東部地区で起きている。この前、地区の最後のコンビニが1月11日に閉店した。今、買い物に行くところは、白鳥地区のスーパーだが、そこに本当はバスで行きたい。それでもバスがないという現実である。名古屋の近くの便利の良い東郷町でもこういう状況である。

- ・資料1—1の3番で提案されている3つに加え、4つ目として「早期の再編」を是非入れていただきたい。再編から6年かけて何もせず、その後にもまた3年かけて再編をする。10年何もしないのは絶対にいけない。

<事務局>

- ・2番の前回会議の議論の中で、2番の2つ目の項目で、「現在のじゅんかい 君路線は、会議の場で皆で決めたこと。」とある。前回の再編では、4年ほど時間をかけている。その期間には再編に関する住民アンケートを取った。その結果で1番多かった意見が、「利用者を増やすことで、税負担を減らしていく。」いうものだった。それを踏まえながら、再編のコンセプトを組み、進めてきた。3番のところできくつか例を挙げたが、巡回バスにこだわらず、他の移動手段を提供できるように尽力していく。

<諸輪地区代表>

- ・前回の再編は皆で決めたということは理解したが、中間評価に基づいて、今後については今日皆さんと一緒に決めていけばいい。じゅんかい君の東コースに乗っている方は、8割が不満だという結果が出ている。このまま放置して本当にいいのか。中間年でも構わないので、改善すればいい。事務局も再編に向かって汗をかいてほしい。

<会長>

- ・今の話を聞くと、必ずバスである必要があるのかと感じる。高齢者がバスで買い物に出かけて、重い荷物を持って帰ってくるのは不可能だと思う。今はデマンドタクシーがあるので、白鳥地区のスーパーからデマンドタクシーで家の前まで帰ってきた方がいいのではないか。

<諸輪地区代表>

- ・理想のような話だが、デマンドタクシーの使いにくさを私も散々聞いている。予約をしたいと思っても、同じ人が延々と予約していたり、予約も集中していたりという話を聞く。バスのように決まった時間に来る安心感がなく、とても使えないという話もある。今のデマンドタクシーのキャパシティでは使えないという話を聞いている。

<会長>

- ・東郷町に限らずドライバー不足であり、特にピーク時間帯の需要への対応は、非常に

厳しいと聞いている。

<事務局>

- ・予約が取れないという話が出たが、今年度実施した利用者アンケートで「いつも予約できない」と回答したのは1割だった。この1割を多いと捉えるか少ないと捉えるかというところはあるが、現在、デマンドタクシーに限らず、一般タクシーもドライバー不足であり、予約がとりづらいときがある。例えば午前中の高齢者の方が外出したい時間は予約が取りにくい。そういった中で、デマンドタクシーに協力をいただいている事業者には、空いている時間を案内していただいている。

<瀬戸自動車運送株式会社>

- ・買い物を終えて帰るならば、タクシーはバスよりも便利である。バスはその時間に絶対に行かないと乗り遅れることもあるが、タクシーは予約が取れなくても、20分から30分待てば、ほとんど予約ができる。有効に使っていただきたい。例えば店舗内で待たせてもらう場所を店舗の協力で作ってもらうだとか、みんなで移動の手段を確保することがいい町づくりになると思う。

<会長>

- ・諸輪地区代表の伝えたいことは、同じ町なので、どこでもすべからく同じサービスにすべきだということ。あるいは、全く同じじゃないにしても、あまりにも大きな格差は許されないという話だと思う。ここは、町の財政をどれだけ投じることができるかだと感じる。乗ろうが乗るまいが、同じ水準のバスを走らせることができるだけの予算があれば、それは可能だと思う。1時間に1本という話もあったと思うが、限られた財政制約の下で、より税金の効率的な活用をどうするかということで、多いところは少し手厚くという路線になったと思う。それが前回の議論、今回の再編だった。一方で不便になった地域の方々はどうするのかという話があった。確かにそれは行政サービスとして問題である。そこに関しては、他の交通手段をより使いやすいようにしようということで、現状のデマンドタクシーに問題があるならば、その問題を解決する方向で検討した方がいい。要は、バスに見合った需要かどうかということが重要である。現状のようにならないために、どうすればよかったかということ、再編の前に諸輪の皆さんが使ってくれれば、何も問題なかった。

<諸輪地区代表>

- ・(首を横に振る。)

<会長>

- ・それはご理解いただきたい。見直しをしようとした時に、たくさん使われているという事実があれば、ここは今まで通り行きましようということになる。それがバスにふさわしい需要ということである。

<名古屋タクシー協会>

- ・以前、この会議でも指摘をさせてもらったが、東郷町のデマンドタクシーは世間一般で言われているデマンドタクシーではない。乗用タクシーである。タクシーの空いている時間帯にそれを上手に活用して町が一定の額を負担する。これはデマンドタクシーではない。デマンドタクシーは、一定の予約に対して、コースを組んだり、時間的な都合を見たりしながら配車をする。当然、その中では乗合いも発生してくる。そこをまずご理解いただきたい。
- ・東郷町のデマンドタクシーは、一般のタクシーの空き時間を活用しており、そこにドライバーが不足をしているので自分が使いたい時に使えない、こういう不便についてどうするんだという話だと思う。この議論は全国津々浦々どこでも起きている。名古屋市でもこういう問題は現実にある。特に名古屋市の中心から離れれば離れるほど、人口が少ないところであればあるほどこういう問題が出てくる。先ほど会長が予算の話をしてしたが、その1点に尽きる。名古屋交通圏のある自治体がタクシーを1台借り上げて、エリアの中で自由に使えるようなもの考えた。この借上げ費用がどれほどかかるかだとか、利用者の方がどれほどだとか、どれほどの費用を利用者に負担していただくのかというところはあるが、そこにタクシー事業者の利益があるならば、タクシー事業者は十分に協力できる。そういうことを住民の方とタクシー事業者と行政で膝を突き合わせて話をしていかないと、この問題はいつまでたっても解決しない。国土交通省は共創、共に創る、こういう言葉でもって、3つの共創を掲げている。自治体と事業者の共創、事業者と事業者の共創、さらには民間の方々との共創、こういう仕組の中で、その地域にあったものを具体的に検討してほしいと。国はそういう方向にはっきりと舵を切っている。
- ・もう1つ補足をすると、今、ライドシェアの議論が盛んに行われている。ライドシェアの議論は大きく2つあり、米国型ライドシェアという、自家用のドライバーをアプリ配車で、スマホで自由に配車するというもの。もう1つは、タクシー事業者の管理下において、安全と安心を兼ね備えた、いわゆる一種免許のマイカーの活用方法、これを国の中央の政策審議会で議論をしている。
- ・もう1つ、いわゆる交通空白地の自家用有償運送、これについても議論が行われている最中であり、これらの議論を見ながら、今後の東郷町の交通のあり方を考えていくことが重要であり、理想的だと考える。

<会長>

- ・デマンドタクシーと言いながら、今の東郷町はいわゆる日本型のデマンドではない。いわゆる日本で言うデマンドタクシーというのは、借り上げていて、いつもドライバーと車両が確保されているという状態だということである。また、1台で十分かという、1台では足りないという問題も出てくる。そういう意見もある中、提案にある地域の輸送資源の活用、あるいは地域主体の交通サービスの支援で対応できるのではないかという話だったと思う。

<愛知運輸支局>

- ・東部地区の減便は、利用者数が少なかったなので、その少ない利用者数に合わせたというところが基本的な考え方だと思う。仮に巡回バスを再編しようとする、1年か2年にかかる。今回、東部地区の方が不便というアンケート結果が出ているが、そこをどう対応するかは、事務局から提案のあった「地域主体の交通サービスに対する支援」だと思う。運用は別途議論があるが、交通を真に必要とする方がどれだけいて、実際に使われているというところが確認されて、別の手段では対応できない、つまりバスの方がいいという話になれば、町でバスに切り替える判断ができる。実際にどの程度の利用者数があればバスに切り替えるのかは、東部地区にバスを回したら別のところのバスが減るとか、そういうところも出てくるので、さじ加減は難しい。とにかく現状の段階は、どのように地域の方が交通を利用するのか、実際にどれだけ利用されるのかを踏まえながら、今回の計画期間で検討を重ねて、次の計画のところでバスをどのようにするのか、必要であれば再編をする、という考え方でどうかと思う。

<会長>

- ・気になるのは小学生が困っているということ。再編の時、小学生を乗れるようにしたよう調整した記憶であるが。

<事務局>

- ・再編の際には2年ほどかけて、学校の先生と調整をした記録がある。ただ、じゅんかい君に子どもが乗ることについてをどの程度学校が推奨するのかというところがある。本数を増やして、行政から登校に使ってくださいというべきものではないかと思う。少なからず学校の先生の意見を聞いて、再編を実施したと認識している。

<諸輪地区代表>

- ・今の事務局の話では調整をした話のように聞こえるが、バスの本数からいえば調整はできたといえるものではない。毎日多くの車が朝夕学校に送迎に来ている。今日にでも見に行ってみてほしい。何が起きているかよくわかる。現実を知ってもらいたい。
- ・デマンドタクシーは努力してより使いやすくなるとよいと思うが、ベースのバスの部

分、他の地区にも影響があるわけだが、もう一度再編について協力いただけるのか。私だけではなく、出席している他の地区の方の意見も聞いていただきたい。

<白土地区代表>

- ・白土地区は、人口も増えて、病院もできた。ショッピング施設もできてきているということで、バスの話は地元では全然出ない。地域の格差が大きいということであるので、この公共交通会議は、その格差を埋めるという点も大事だと思う。どれほどできるかは分からないが、変える方法でも検討をお願いしたい。前回の会議の中でも申し上げた、路線等の改編を判断する指標として、ある程度の不満割合を定めてもよい。

<会長>

- ・この大きな格差は削るべきだと。その場合には、西部地区を走っているバスが減ってもやむを得ないだろうということですね。

<白土地区代表>

(首を縦に振る。)

<御岳地区代表>

- ・御岳地区の二丁目はじゅんかい君の要望はあまりない。一丁目は諸輪地区と隣接しているので、諸輪地区の人との繋がりもあり、諸輪の方と一緒にじゅんかい君に乗って出かけると、非常に本数が減って不便だという話も聞く。
- ・諸輪住宅の自治会長から会議の場で是非言ってほしいという話をされたことがある。じゅんかい君の乗車にお金を払ってもいいのではないかと。高齢者もお金を持たれている方はいるので大丈夫だと思う。今から根本を覆すような話で、なぜお金を取るのかという人も当然出てくると思うが、私も個人的にお金を払って乗ってもいい。

<会長>

- ・乗車の有料化という話、また、同じようにじゅんかい君のサービス格差をできるだけ減らした方がいいということで事務局いかがか。

<事務局>

- ・白土地区代表からバスの本数が減っても仕方がないという話があったが、諸輪地区代表が言われているような不満と同様に南西コースにも不満が出ている。その結果もあるので、白土地区代表が言われたとおりに南西コースを減便するとは、事務局からは簡単には言えない。そこは慎重にと考えている。
- ・我々も、地域の不満の声に目をつむっているとか、ないがしろにしているわけではなく、

新たな輸送資源を考えていきましょうと提案している。例えば諸輪地区から新たな輸送資源を一緒にやりましょとなり、「これだけのニーズがあった」、「バスで運ぶほどの人数が乗った」ということになれば、バスを走らせるというような、一緒に作り上げる方法もあると考えている。バスは大量一括輸送、定時定路線というイメージがあると思うが、そうではない他の手段、その中にはデマンドタクシーも挙げられたが、それらを含めて考えてはどうかということである。既存の限られた資源から、新たな資源を活用していく方向で町は考えていけたらという提案なので、そちらも含めてご意見いただきたい。

<会長>

- ・是非皆さんに考えてほしいのは、巡回バスだけではなく、他の交通手段も含めて行けるのか行けないのかをもう少し広い視点で考えていただきたい。
- ・財政的に豊かな時代には、行政に要望を伝えて、それに行政は答えるべく頑張ってくれていたと思う。それが可能だった。今はそれができない時代だと思っている。そうであるならば、どうするのか。一緒に作り上げていく時代である。自分のところに交通が欲しい、ならば自分でも努力する。それを行政が支える。一緒に作り上げていって、先ほどの愛知運輸支局の話の続きになるが、それで人が動くようになってきたら、タクシーじゃ足りないからワゴンにしよう。皆さんがよく使うようになったら、週に何便だったのが毎日になる、あるいは2時間に1本だったのが1時間に1本になる。このようにやっていかない限り、要望に答えて走らせたものの、結局は全然乗ってもらえないということの繰り返しになってしまう。
- ・もう2点。1つは、交通はいろんな手段があり、その中で移動がどうあるべきかということ。もう1つは、公助だけではなく、一緒に作っていくという姿勢を持つということが大事である。そういう意味では、今回の事務局の提案は、まさに新しいことをやっていきましょう、地域と共にやっていきます、場合によってはそれがバスに繋がっていく可能性も当然あり得るということですね。

<事務局>

- ・選択肢として十分にあり得る。

<会長>

- ・この事務局の提案は決して悪くはなく、地域の方々にとっても悪くないと思う。ただ、先ほどのデマンドタクシーが使いにくい、あるいは、小学生が実は使えないダイヤになっているということがあれば、そこは見直していただく必要があると思う。
- ・もう1つは、もう何年も待てないというのは確かに仰る通りなので、提案したものは早急に取り組んでもらう必要があると考えているが、この計画では、令和6年から始まる

こととなっている。新しい仕組みなので、簡単にはいかないと思うが、私含め、愛知運輸支局、愛知県、その他交通事業者もいる中で、いろんなノウハウを持っており、やれる体制を整えることはできている。あとは、地域の方々がそれに対してどこまでついてこられるかということ。この計画で決して悪い方向に行くことはなく、本当に地域の方々が望まれるような新たな手段を導入するきっかけになり得るのではないかなという気がしている。

<名古屋タクシー協会>

- ・資料1-1の3番の(3)地域主体の交通サービスに対する支援という話のところで、共助の参考資料もいただいた。資料を見る限り、東郷町は地域の人に一生懸命考えてと言っているように感じる。その仕組みに対して町が何を支援するのか、そこをはっきり示さないとボランティア輸送で終わってしまう。ガソリン代の実費だけで、本当に運転手の確保ができるのか。長続きは絶対しない。安全性でも問題は出てくる。先ほど私が申し上げたように、地域の事業者と何ができるのかということを実際に考えていただきたい。

<事務局>

- ・地域の事業者との連携という話をいただいたので、この会議に参加している事業者の知恵もいただきながら、さらに地区の方とも連携してやっていけたらと思う。

<愛知運輸支局>

- ・民間路線バスの連携強化のところについても、今ある既存の交通機関を活用して、乗継ぎをしながら、事業者との共助も使いながら、移動できるようにする観点は重要だと思う。
- ・計画を進めていくには、現状がこうなって、こういう取り組みをした結果、こういう風になった、あるいはこの部分について改悪した、この部分についてこういう意見が上がった、というところはしっかり把握していく必要がある。特に路線バスの乗継ぎに関しては、現状の乗継ぎ状況等をデータで押さえておいて、それがこういう施策で向上したというのは拾えるようにしないといけない。そういった観点からも、いろんなデータを取っていただいて、次期計画に繋げるように取り計らっていただきたい。

<諸輪地区代表>

- ・まだ納得できていない。地区代表2人からも私の意見に納得いただいている中で、なぜそうじゃない結論になるのかと。事務局の提案が悪いわけではない。これが進めばもちろんいいと思うが、再編についてはなぜ考えないのか。

<事務局>

- ・何度も申し上げているが、再編は皆さんで決めたというところと、再編前のアンケートや手順を踏んでやっていく中で、今回これで進めていきたいと思いますという結論で進めている。ご意見はいただくが、すぐの再編は難しいというところをご理解いただきたい。

<諸輪地区代表>

- ・中間評価をして、評価が悪かった、8割の人が不満という結果が出て、すぐに動くべきではないか。

<会長>

- ・不満だけで、路線やダイヤの見直しはできなくて、実態との比較も重要だと思う。その中で町としては、現状の形で行きながら、困っている方々に対しての補完的な取組を掲げている。まずこの3つ、せつかくいい提案をいただいているので、ここに是非地域の方々も関与しながらいいものを作り上げていくという、そういう姿勢の方がいいと思うがどうか。
- ・先ほどの繰返しになるが、現実的にお年を召した方が買い物へ行って牛乳、卵をいっぱい持って、バスで帰ってくるのは困難だ。絶対にデマンドタクシーが便利。ただ、デマンドタクシーの使い勝手が悪いのであれば、そこを改善したほうがよい。バスにこだわりすぎだと感じる。

<諸輪地区代表>

- ・こだわっているのは会長だ。再編しないということにこだわりがある。皆さんの意見を聞いて取りまとめたということかもしれないが、3年経って「×」がついた。これをすぐに見直せば問題はない。大きく見直さなくても結構。見直す姿勢をいただきたい。

<会長>

- ・繰返しになるが、今回、この新しい仕組みを入れながら、そこで需要が顕在化してきたならば、路線、ダイヤ等の検討をすると事務局が言っている。まずは新しい仕組みで地域の方々がどれほど利用してもらえるかを探ってはどうか。不満が高いから便数を増やすとしても、便数を増やしたら利用が増えるのかというところもある。町としてその見通しが見えないのが一番大きいところだと思う。当然、利用が多いならそこをやりましょうということだと思う。小学生が困っている、お年寄りの方々が買い物に行くのに困っているのであるならば、事務局案はこの問題に対しての解決策の提案にはなっていると思う。

<諸輪地区代表>

- ・この3つの提案がこの3年内にできる可能性があるならば、非常に建設的な提案だと

思うが、3年後に1つぐらいは動くようになるのか。

<事務局>

- ・そのようにさせていただく。

<諸輪地区代表>

- ・相手がある話で、やれるかと思っても現実はかなり厳しい。町の予算とも相手方は事情が違う。提案に加えてベースのバスの不均衡を直したらどうかというお願いをしている。是非4つ目に再編についても、検討だとか、そういう準備もしていただくとか、そういったものを入れてもらわないと納得ができない。

<会長>

- ・路線の再編につなげる可能性もあるというようなことは明記できないか。

<事務局>

- ・再編に限らず、路線やダイヤの検討と記載させていただく。

<会長>

- ・小学生の通学の状況は調べてほしい。ダイヤの設定が誤っているのであれば、そこは見直してほしい。

<諸輪地区代表>

- ・大変困っている。3時間に1本では解決できない。その実態をまず知っておいてほしい。今解決できているという話はとんでもない。何が今小学校で起きているか。父兄の送迎は、毎日見ることができる。

<会長>

- ・送迎実態の中には、ダイヤが合わないことを理由とする者の他、単に車で行った方が早いから送迎しているものも含まれるわけだが、小学生が元々通学に使っていたと思われるので、それができていないのであれば、ダイヤの設定に問題があるかと思う。その確認をお願いしたい。それは来年度しっかりやってもらいたい。
- ・デマンドタクシーの使い勝手が悪いという問題があったので、そこも今一度事実を把握して必要な対応を検討いただきたい。こちらはできるだけ速やかにお願いしたい。場合によっては、必要に応じて借上げも出てくるかもしれない。それは税の効率的な活用ということで、借り上げた方が効果的であればそれも有り得る。そこまでの需要がないのであれば、今の段階でどうやってドライバーの確保、予約が取れるようにするのか、あ

るいは需要の平準化をどうすればいいのかといったところを検討いただきたい。

- ・共助については、6年度から動くので、住民の方々にお任せというわけではなく、どういう形で実施するのかを具体的に、できるだけ早く作って、住民の方に見せていただきたい。
- ・さらに、その結果、需要が顕在化してきて、個別輸送で対応できないのであれば、バスでの対応を検討する。限られた予算と限られた資源なので、100%は難しいが、まずは60%、そこから70%、80%と、それは皆さんとともに作り上げていくことだと思うので、そういう形での見直しとご理解いただきたい。
- ・それでは、今言った4点を加えた上で進めていただきたい。

<愛知運輸支局>

- ・公共交通計画の記載事項について、今後事務的な修正を求める可能性がある。内容が変わることは基本的にはないので、その辺りの修正は事務局と愛知運輸支局にお任せいただきたい。

<会長>

- ・国の法律の改正に伴っての対応で、文言等の修正は事務局に一任させていただければと思う。
- ・では、改めて先ほどの4点を明確にさせていただき、今回の修正案をご承認いただくとうことでよろしいか。

※議題(1)について、委員の承認を得た。

- (2) 令和6年度東郷町地域公共交通計画に関する事業計画（案）について（資料2）
【事務局説明】

※議題(2)について、委員の承認を得た。

- (3) 令和6年度東郷町地域公共交通会議予算（案）について（資料3）
【事務局説明】

※議題(3)について、委員の承認を得た。

- (4) 東郷町地域公共交通運賃料金協議会設置要綱（案）の制定及び東郷町地域公共交通会議設置要綱（案）の一部改正について（資料4-1、4-2、4-3）
【愛知運輸支局及び事務局説明】

※議題(4)について、委員の承認を得た。

以 上